

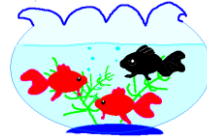
# やつおもて

第12号 (2016年7月)  
編集発行：和田公民館  
協力：公民館運営推進委員  
電話：(45-1918)  
eメール:wada-k@ph-hamada.jp

## ～和田地区いろいろ見て歩く記～



なつもち～かつく  
のにもや～まにも



は～ちじゅうはちや  
わ～かばがしげる



新緑の季節がやって来ました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？新緑で思いつくのが新茶です。和田小の子どもさんたちが戸川でお茶摘みをされていたのを思い出します。香り豊かな新茶、今年も美味しくできあがったことでしょうか！（つぬ）

### 【和田の歴史コーナー】

◆今回は、歴史年表を作成する段階で頂いたお手紙を掲載いたします。この手紙は、江村医院の本郷診療所の開設時期を調べていた時、木田地区の藤本孝男さんを通じて頂戴したものです。

つぬです！

なんでも  
い桃や  
や戦



#### 本郷診療所（江村医院） ———— 父の思い出 ————

父、江村正志が郷里、木田村で祖父の医業を引き継いだのは昭和22年7月でした。当初、自宅診療に加え、本郷、和田、戸川、八戸、勝地などの交通事情が悪く徒歩での峠を越え、谷を渡っての往診の日常でした。しかし、医療の時間的制約、効率の悪さなどから十分な医療ができていないのが大きな悩みであったと聞いていました。

昭和29年か30年頃、本郷地区の代表の方から本郷地区に是非診療所を設置して欲しいとの要望があり、父も医療の充実、改善のため引き受けたそうです。木田からの狭い村道の上の方にあった湯浅家（医院？）の空き家を診療所として提供を受けて開業しました。（後に下の方の集落の民家に移転）

私の記憶では坂道を下ると小学校があり、三叉路を右に折れると重富、和田を通り今市へと通じ、左に曲がると戸川地区へ通じる道筋があったと思います。

診療の開始時刻も決まっておらず、早くから患者さん（元気な人も）が待合室に来られ、尾ひれを付けながら世間話に興じておられたこと、一種の社交場的な雰囲気があったようです。父も患者さんの家族の事情や気心も良く分かっていて、信頼も厚く、医療＋人生相談など暖かい心の交流もあったようです。

聴診器、打診、血圧計が診療の基本でしたが、「先生に手を握ってもらうと元気がでる。薬はいらん」というおばあさんもいたそうです。今考えると民家を改造した貧弱な診療所でしたが、本郷地区の皆様の中に溶け込んだ父の姿を懐かしく思い出しています。

本郷地区の皆様のご健康を祈願し、地区の益々のご発展を切に願っております。

平成28年3月9日 江村 武志、淳二、英樹 記

◆平成 27 年度のふるさと再発見事業で「和田地区の歴史年表づくり」をしました。完成した年表をランチルームに掲示しております。どのような歴史を辿って現在の和田地区があるのか感じていただければ幸いです。

… 続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです ……………



## 休み石

—「防六をあおぎて」より—

1170 年頃、本郷の町を南に望む往還沿いの山の尾根道に「休み石」という岩があった。細長い石で、ちょうど人が座るのにいい高さであった。

山仕事からの帰りであろう、一人の「木こり」が通りかかった。すると一人の偉丈夫な男がその石に座っていた。近づいてみると旅の僧のようだ。持った六尺棒にすがるようにして、伸び放題のあごに手をやって疲れた様子で思案顔だ。「木こり」は近づいて「もし、どうしんさったんです?」「人を捜している。石浦峠ってどこだろう?」「もしかして、あんたも牛若さんを捜して追っかけて来たのかい?女と見まがうばかりの色白の男を追って、あんたも好きだねえ〜」「何人も追っている者がいるらしいが、わしはみだらな思いで捜し求めている訳ではない。

わしは、あの方の家来なのだ…」

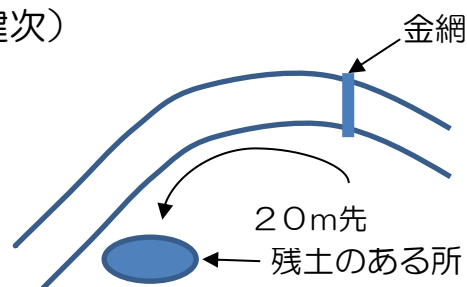
「木こり」は状況を飲み込めない様だったが、この男、牛若がいると云うその石浦を教えて貰い山道を急いだ。坂道はつらい、息を弾ませてやっと切り切った…重富の村が目下に見える。しかし、肝心な牛若はいなかった。確かに「木こり」が言っていた岩があり牛若の刀の跡があり、ここで修業したことはわかったのだが姿は無かった。何としたことか…また、わしを置いて…弁慶は重い足を引きづって山を下って行った。

しばらくして二人は固い契で結ばれ平家を倒す事になるのだが、この伝説は、それ以前の話になる。それからはこの岩を「弁慶の休み石」と云うようになった。

今は土に埋まって見えないという。(文・絵 佐々岡健次)



私は知らなかったが…  
あるんなら掘り出さなきゃいけないで〜  
本当にあった「実証物として」ね!



「はりがね」という地名



## ベンソン陽子の海外便り 第2回

◆前回に続き、アメリカの食べ物について紹介します。



### クリスマスとお正月

アメリカのクリスマスは意味的には感謝祭よりも深いですが、食べ物自体は感謝祭とほぼ同じです。唯一違うのはデザート。感謝祭で食べるピカンパイやパンプキンパイのかわりに、アップルパイやクッキーなどをエッグノックという飲み物と一緒に食べます。お正月は祝日ですが、食べ物は特別なものはないです。日本のようにおせちがないのでさみしくも感じますが、これもアメリカ流です。暖かい南部ではそれこそバーベキューもできます！

ベンソン家では私が12月31日におそばを作ります。そして、おもちがあればお雑煮を1日に食べることにしています。アメリカ人と日本人のハーフの子の中には、日本の食べ物が苦手な子もたくさんいますが、ラッキーなことにベンソン家の兄妹は日本食が大好きなので助かっています。(笑)

◆続いては家族の様子を写真と一緒に紹介します。



← アトランタの自宅で。左から長男ドミニク、長女あやな、従兄弟達（いとこちがい）ディラン、従兄弟クリス、主人ダリルです。

下の写真はあやなと私です。場所はアイホップというファミリー



レストランです。左の写真は、あやなの小学校で、主人とあやな

です。小学校は5年生までのものと6年生までのものがあり、中学校は

2年又は3年、高校は4年間です。右の写真でドミニクとあやながいるのは、オクラホマの動物園です。3頭の象がいろいろと芸をしてくれるショーがあり子供達にも人気があります。



(文・写真 ベンソン塚崎陽子)

## 公民館からのお知らせ

3月31日付けで田中忠昭館長が退任されました。10年の長きに亘り地域の為に尽力頂きましたことに対し深く感謝を申し上げます。尚、後任には重富の岡本嗣喜さんが就任されました。新しい体制の公民館に今後共ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

和田公民館職員一同

### 小学生人権標語テスト入選作品

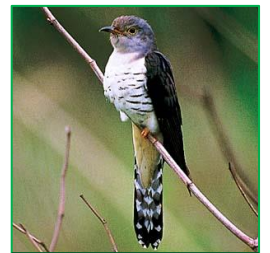
# ありがとう 感謝の気持ち 伝えよう

## 館長の今月の一言

5月より和田公民館にお世話になっております。早くも一か月余りが過ぎ、卯の花（ウツギの花）の季節となりました。

この頃になるとホトトギスの鳴き声が夜中でも聞こえてくるようになります。ホトトギスは、ウグイスの巣の中に卵を産み自分では育てません。ウグイスは自分より大きな子どもを一生懸命、育てます。

これからも和田公民館に多くの皆様方に気軽に立ち寄って頂き、ご利用下さいますようお願い致します。



ホトトギス



次は

## ～つぬちゃんのこなのやりましたコーナー～



6月12日（日）浜田市総合防災訓練が行われました。会場は旭運動公園を中心に旭中学校体育館、駐車場です。会場内では実際の災害を想定して各団体がそれぞれの役割の訓練を実施され、災害時の救援の流れを見学する事ができました。浜田市内の公民館職員は旭中学生と一緒に、防災士さんから避難所設営の心構えを教わり、実際に毛布での担架づくり、段ボール箱でのベッドづくりなどを体験をしました。あつてはならない災害ですが、起こった時の対処法を少しずつでも覚えておかなければならないと感じました。

### あ と が き

6月15日朝、戸川地区の漁協周辺に熊が出没し、釣り人が襲われてけがをされるという事故が発生しました。テレビのニュースなどでは見ていましたが、こんな身近な場所で起こるとは…びっくりです。熊による事故もある意味では災害と言えますので、熊による事故を防ぐのも防災です。これからますます熊の出没が多くなることが予想されます。熊に出会わないようにする。熊と出会った時の対処方法を学習しておく。「自分の身はまず自分で守る」みんなで気を付けましょう！（美）